

2 令和6年度の学校評価結果

熊本県立天草高等学校倉岳校 令和6年度（2024年度）学校評価表

1 学校教育目標

「県立高等学校における教育指導の重点」及び「人権教育取組の方向」等を基盤に据え、本校の校訓「正大・剛健・寛厚」のもと、豊かな人間性を持つ「地球(知究)市民」の育成を目指す。

2 本年度の重点目標

- (1)互いの人権を尊重しあう心の教育の充実
- (2)基本的生活習慣の確立と社会規範意識の醸成(生徒指導の充実)
- (3)進路意識の高揚と進路目標の早期確立(進路指導の充実)
- (4)“生きる力”としての基礎学力の定着(授業の充実・教科指導力の向上)
- (5)生命を尊重し、安全や健康に高い意識と行動力を持った生徒の育成(健康・安全教育の充実)
- (6)特別支援教育及びインクルーシブ教育の充実
- (7)学校の魅力づくりとその情報発信による入学者数の増
- (8)学校における働き方改革

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	魅力ある学校づくりに取り組む。	・本校の教育目標、教育活動を地域に発信し、志願者増を図れたか。	・体験入学の参加者数50人以上を目指す。 ・志願者数15人以上を目指す。	・学校案内パンフレット(A4仕上がり巻三つ折り)を3,500部作成し、天草管内の全19校の中学生全員(約2,500人)に配付する。 ・各中学校で行われる高校説明会において、直接在校生による発表、または事前に撮影した在校生による発表を6校以上で行い倉岳校の魅力を伝える。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内パンフレットは、3,500部作成し、夏休み及び中学校の高校説明会時に天草管内の全中学生に配布することができた。また、その後の学校行事のときにも余裕を持って配ることができた。次年度も同部数作成したい。 ・各中学校で行われる高校説明会において、本渡中と龍ヶ岳中の2校で事前に撮影したメッセージの発表を行った。卒業生によるメッセージは中学生への訴求力が高いので、次年度も継続したい。また10月からではあったが、中学生が聞きたい内容を中心に説明するように説明方法を変更した。 ・体験入学申込者数は中学校1～3年生合わせて76人(内、倉岳中学校外26人)、当日の参加者74人で、昨年度よりも増加した。事後アンケートでは、54人が倉岳校に進学してみたいとの肯定的な回答があった。当日は全校生徒の協力を得て、受付から撤収まで円滑に行うことができた。次年度も全校生徒の協力を得て実施できればと考えている。
	本校の特色を生かした教育活動の充実が図られたか。	・本校の特色を生かした教育活動の充実が図られたか。	・U-KI60以上(内容のまとまり(単元等)あたりで、生徒が端末等を活用している授業の割合が60%以上)を目指す。	・職員を対象としたChromebook端末の活用研修に3名以上参加する。 ・ICT支援員や外部講師による職員研修を行い、各種アプリ等の利活用方法を学ぶ。 ・学期毎に、教師のICT及び生徒の端末の活用調査を行う。生徒の端末活用力調査を年2回(6月、12月)行い、年間を通しての上昇度合いを把握する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・Chromebook 端末の活用研修への参加は4人(延べ6回)だった。 ・ICTに係る職員研修は、ICT支援員が作成した動画を視聴する形式で実施した。 ・教師のU-KI指数は1学期75.0%、2学期85.0%と高い水準を維持したが、生徒のU-KI指数は1学期43.8%、2学期36.6%と低下し、目標を達成することができなかった。次年度も、端末活用力調査への参加の呼びかけやICT支援員による研修、アプリの活用方法の紹介を継続し、授業での生徒の活用を促したい。 ・生徒の端末活用力調査の結果では、全体的に肯定的な回答が増加した。次年度も、あらゆる機会を見つけて使用する場面を設け、活用力を高めたい。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
地域に根ざし、地域一体となつた学校を目指し、開かれた学校づくりに取り組む。	・保護者や同窓会、地域等と協働し、充実した学校行事ができたか。	・育友会総会の保護者出席率100%を達成する(欠席者集会を含む)。 ・マリンフェスタと秋桜祭の保護者参加率50%以上を達成。	・保護者が比較的参加しやすい日曜日に実施する。欠席者集会の案内を2週間前に配付する。 ・マリンフェスタの保護者参加率を高めるために、マリンフェスタの保護者説明会を実施する。 ・同窓会と協働しマリンフェスタではポロシャツ販売を、秋桜祭ではリサイクルバザーを実施する。	B	・育友会総会について、保護者が参加しやすい環境配備に手を尽くしたが、22家庭中2家庭が欠席となり、出席率91%となった。 ・マリンフェスタの保護者説明会を5月16日(木)に実施し、21家庭中13家庭にご出席頂いた。この場で育友会長からバーベキューに関する具体的な説明をしていただきたいことで、当日も18家庭(86%)が参加してくださり、マリンフェスタに勢いがついた。秋桜祭では本年度も育友会食品バザーを行い、18家庭(86%)にご協力頂くことができた。 ・同窓会と協同し、マリンフェスタと秋桜祭の両方でポロシャツを販売し、秋桜祭ではこれに加えてリサイクルバザーを実施した。また同窓会が秋桜祭で寄付金を募って下さり、倉岳校のサポートに尽力してくださっている。	・育友会総会について、保護者が参加しやすい環境配備に手を尽くしたが、22家庭中2家庭が欠席となり、出席率91%となった。 ・マリンフェスタの保護者説明会を5月16日(木)に実施し、21家庭中13家庭にご出席頂いた。この場で育友会長からバーベキューに関する具体的な説明をしていただきたいことで、当日も18家庭(86%)が参加してくださり、マリンフェスタに勢いがついた。秋桜祭では本年度も育友会食品バザーを行い、18家庭(86%)にご協力頂くことができた。 ・同窓会と協同し、マリンフェスタと秋桜祭の両方でポロシャツを販売し、秋桜祭ではこれに加えてリサイクルバザーを実施した。また同窓会が秋桜祭で寄付金を募って下さり、倉岳校のサポートに尽力してくださっている。
	・教育活動の公開の促進は図れたか。	・HPの累計アクセス数、昨年度26万件を、30万件以上にする。 ・倉岳校の情報を地域に発信し、地域住民に学校をより一層理解してもらう。	・HP更新を週1回以上の頻度で行い、授業や学校行事をはじめとする学校生活の様子を動画で発信する。また、学校行事の更新の他にも、ゆるキャラのページを定期的に更新するなど魅力的なコンテンツを発信する。 ・倉校新聞(年5回発行)を市政だよりにはさみ、倉岳町内の全世帯(約1000世帯)に配付するとともに、近隣中学校の各学級に配付、掲示してもらう。		A	・総務部職員でHPの記事作成担当期間を決め、平均週2~3回の頻度で情報発信をすることができた。大きな学校行事の様子は必ず記事にし、大きな行事が無い時期は学校環境や授業風景などを積極的に発信した。 ・HPの累計アクセス数は2025年1月21日11時現在で34万4688件となっており、目標の30万件を大幅に超え、前年から約8万件のアクセス数増加となった。 ・倉校新聞を年5回発行し、市政だよりに挟み、倉岳町全世帯に学校の様子を広く周知した。また、近隣中学校や生徒の出身中学校にも持参または送付し、成長した生徒の様子をお伝えすることができた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学力向上	生徒の基礎基本の定着と学力の向上に取り組む。	・各定期考査前の1日の平均学習時間で3時間以上だった生徒数が目標を上回ったか。	・考査1週間前平均学習時間3時間(180分)以上を全員年間1回以上を目指す。	・生徒が見通しを持って計画的に取り組めるように、学習時間調査を考査2週間前から実施する。学習時間調査の結果については、考査終了後1週間以内にまとめ全職員で共有する。 ・始業式、終業式等で、生徒に学習時間の状況について提示し、学習への意欲を高める。	B	・今年度も毎日 Chromebook から入力できるシートを作成し、考査2週間前から学習時間調査を実施した。集計結果は、考査終了後1週間以内にまとめ全職員に配付することができた。 ・始業式、終業式等で、生徒に学習時間の状況について提示した。 ・2学期期末考査までに考査前平均学習時間3時間以上を1回以上達成した生徒は20人中16人で、全員1回以上は達成できていない。
		・意欲的な読書の推進が図られたか。	・1月末までの生徒一人当たりの貸出冊数6.5冊以上を目指す。 ・4科目以上の授業での図書室や資料の活用を目指す。	・図書だよりを年間3回発行する。 ・朝読書が習慣となっているので、生徒個人の読書記録簿を活用して声かけ等を行い、さらに活性化させる。 ・各教科の先生方からもリクエストを募り、必要な図書を購入する。 ・生徒たち自身がお勧めの本を紹介し合うコーナーを設置し読書活動を支える。	B	・図書だよりはこれまで2回発行した。3学期に1回発行する。 ・朝読書は生徒たちが自主的に継続し行っている。係として生徒に対して積極的な声掛けはできていなかった。 ・1月末での生徒一人当たりの貸出冊数は4.7冊で目標には届いていない。声掛けを行い、目標意識をも持たせる必要もあった。 ・授業での図書館や資料の活用は4科目を越えたが、さらに活用してもらえるように動く必要がある。 ・生徒からのリクエストは取れたが、職員からは取れておらず、購入も早くにはできていない状況である。 ・県立図書館からの図書貸出サービスを活用し、生徒たちの利用に資することはできた。しかし、広報不足の面があった。 ・生徒たちのおすすめの本は挙げてもらっているため、活用していく。
	職員の学習指導の工夫・改善に取り組む。	・スーパーティーチャーの活用または近隣高校への授業見学の回数が目標に達したか。 ・倉岳校版学びのスタンダード『マナスター』チェックリストの結果が上昇したか。	・スーパーティーチャーの活用または近隣高校への授業見学を各教科で年間1回以上を目指す。 ・倉岳校版学びのスタンダード『マナスター』(生徒編)のNo.4「振り返り」、No.9「わからないことを尋ねる」、No.15「積極的な発表」に関するチェックリストの比較において、肯定的な数値の上昇を目指す。	・スーパーティーチャーを含む各県立高校の公開授業を適宜案内するとともに、高教研の各部会主催の研究授業も含めた授業見学の回数を年度末に調査する。 ・天草高等学校本校との職員研修をとおして、天高版探究型授業の手法を学び、探究場面を取り入れた授業に取り組む。 ・『マナスター』チェックリストを年2回(6月、12月)実施し、その結果を全職員で共有する。学びのUD通信を発行し、数値上昇につながるような取組を紹介する。 ・1学期の校内公開授業期間、2学期の公開授業週間の際は、各2回以上授業見学を行うようにし、授業の改善と充実を図る。	C	・各県立高校の公開授業や研究授業の授業見学の回数は、5つの教科計7回だった。 ・天草高等学校本校との職員研修の第1回で、天高版探究型授業の概要を把握したが、その手法や探究場面を取り入れた授業に取り組むまでには至らなかった。 ・『マナスター』チェックリストは、7月と12月に実施し、その結果を全職員で共有した。生徒編の2回のチェックリストの比較における肯定的回答の割合は、No.4は1.9ポイント下降、No.9は3.3ポイント上昇、No.15は1.2ポイント下降だった。第1回に比べ、第2回は肯定的回答の割合は上昇したが、数値上昇につながるような取組を紹介する学びのUD通信は発行できなかった。 ・1学期の校内公開授業期間、2学期の公開授業週間の際は、各2回以上授業見学を行うことができなかった。特に2学期は、祝日や学校行事とも重なったこともあり、授業見学を行う時間的な余裕がなかったので、次年度は実施時期を改善したい。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
進路指導（キャリア教育）	基礎学力の向上を目指す。	・基礎学力講座及び個別指導の充実が図れたか。 ・小論文指導の充実が図れたか。 ・対外模擬試験等の受験が学力向上につながったか。	・学校評価アンケートで、「進路達成に向けた実力養成の機会が充実している」のA・B評価90%以上を目指す。	・全学年において、放課後10分間を使った基礎学力講座の実施。 ・大学等進学希望者、公務員希望者への個別指導の実施。 ・小論文指導の充実のため、週に1回新聞記事を読み、意見を書かせる「朝コラム」の実施。 ・対外模試の実施。・学力検討会の実施。	A	・学年の実態に応じたテキストを使用し、放課後の10分間を活用して基礎学力講座をほぼ毎日実施することができた。 ・個別指導について、平日の放課後、長期休業中に計画的に実施し、公務員希望者で合格者を出すことができた。 ・小論文、作文対策として、週に1回新聞記事を読み意見を書かせ、表現力を身につけさせることができた。 ・公務員模試、進学模試と計画的に実施し、実力を測る機会を提供了。 ・学力検討会を2回実施し、全職員で生徒の進路希望、現状の学力について共通理解を図り、以降の指導に生かすことができた。 ・学校評価アンケートで、「進路達成に向けた実力養成の機会が充実している」の項目で、生徒・保護者・職員の3者ともA・B評価95%以上の結果を得ることができた。
	進路意識の高揚と、適切な進路選択の支援。	・進路に係る行事の充実が図れたか。 ・進路情報の提供、進路面談の充実が図れたか。	・学校評価アンケートで、「進路に関する行事は、自分の進路を考える上で役に立っている」のA・B評価90%以上を目指す。 ・学校評価アンケートで、「進路について適切な面談等が行われており、先生方に相談できる」、「進路を考えるために資料や情報が充実し、役に立っている」のA・B評価90%以上を目指す。	・進路行事の充実。キャリア教育講演会、就職ガイダンス、インターンシップ、校内外野別進路ガイダンスを実施し進路意識の高揚を図る。 ・進路面談の充実。二者面談(学期1回)、三者面談(2年:冬休み、3年:夏休み)を実施し、生徒に必要な進路情報を提供する。 ・模擬面接の実施。2年生(3月)、3年生(4月以降)に実施し、実際の試験を想定して行うことで、意識の高揚を図る。 ・各種検定取得の推奨。英検、漢検、数検、家庭科技術検定、その他各種検定取得を勧め、進路目標達成の一助とする。 ・「キャリアパスポート」の活用。自らの成長をポートフォリオさせる。	B	・進路行事について、計画的に実施することができ、生徒の進路意識の高揚を図ることができた。 ・担任を中心に進路面談を行い、生徒・保護者と共に理解を図りながら、必要な進路情報を提供することができた。 ・各種検定について、取得を推奨しているが、実施可能な受験者数が集まらない検定もあり、積極的な取得にはいたらなかった。 ・「キャリアパスポート」について、今年度からデジタル化し、全職員が生徒の成長、振り返りを確認できるようにした。 ・学校評価アンケートで、「進路に関する行事は、自分の進路を考える上で役に立っている」、「進路について適切な面談等が行われており、先生方に相談できる」、「進路を考えるために資料や情報が充実し、役に立っている」の項目で、A・B評価95%以上の結果を得ることができた。
	社会接続支援の充実に取り組む。	・コミュニケーション能力を育成できたか。 ・進路決定後の指導が十分に行えたか。	・年1回以上の新社会人教育の実施。 ・進路決定後も継続的に基礎学力を保障する。	・各種講演会(主権者教育、年金講話、新社会人セミナー、消費者教育)等を実施し、社会人として有用な知識とマナーを身につけさせる。 ・基礎学力の保障のため進路決定後も基礎学力講座、個別指導を継続して行う。	A	・3年生の生徒に対して、熊本県雇用環境整備協会のご協力のもと、新社会人セミナーを実施し、社会人として有用な知識とマナーを身につけさせることができた。また、保護者に対しても離職した際の対応、相談窓口の案内など情報を提供することができた。 ・進路決定後も基礎学力講座を継続して行い、基礎学力の定着を図ることができた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
生徒指導	礼節を重んじた基本的生活習慣の確立に取り組む。	・「倉岳校生活規律訓」に則った規律ある生活が送られているか。	・生徒の自己評価アンケートで「生活規律訓」に関する各項目においてA・B評価95%以上を目指す。 ・服装頭髪検査において再検査者0を達成し継続する。	・全校集会等で「生活規律訓」の内容について話し、生徒が自らの生活と照らし合わせて生活規律訓に則った生活の継続及び改善に向けて考える機会を設ける。 ・日頃から全職員で細やかな指導を行い、服装頭髪検査前には各クラスで事前指導を徹底する。	C	・6項目のうち4項目(掃除・話を聞く態度・時間・服装)においてA・B評価の割合が95%を上回った。その他の2項目では、あいさつ(85%)、進路達成への取組(80%)と昨年度からそれぞれ15ポイント下回った。あいさつに関しては、全体的にしっかりできているものの、1年生3名が否定的回答であったため、今後も日頃からの指導及び個別の指導が必要であると考える。進路達成への取組に関しては、1年生2名、2年生2名が否定的回答であった。目標を立て、目標に向かって努力する大切さを今後も伝えていきたい。 ・服装頭髪検査では、女子が再検査者が1度だけ出たのに対し、男子は1度も再検査者0の時がなかった。男子の再検査対象項目は、ベルトの未装着や爪などであり、風紀を乱す内容ではないものの、担任を中心とした日頃からの身だしなみに関する指導が必要である。
	自ら考え、行動できる人間の育成を図る。	・より良い学校を創るために全ての生徒が尽力しているか。 ・規範意識を持って生活を送っているか。	・生徒の学校評価アンケートで、「生徒会活動が活発である」のA・B評価95%以上を継続する。 ・年間を通して特別な指導件数0件を継続する。	・より良い学校づくりを目指し各委員会において少なくとも1つは新しい取り組みを行うよう促す。 ・全職員で細やかな指導を行い生徒の小さな変化に対しても担任及び学年職員と情報共有し問題行動の未然防止を図る。	A	・活発な生徒会活動に対するA・B評価の割合は昨年度同様95%であった。生徒会執行部をはじめ、各種委員会が、よりよい学校づくりを意識して啓発ポスターの作成など新たな取組がみられた。次年度も全校生徒で生徒会活動の更なる充実が図られるよう全職員で指導していきたい。 ・特別な指導を要する事案は0件であった。すべての生徒が規範意識を持って落ち着いた学校生活を送っている。今後も担任を中心として全職員で情報共有を図り、問題行動の未然防止に努めていきたい。
	社会に通用する人材の育成を目指す。	・ボランティア活動の推進が図られたか。 ・交通安全教育の推進が図られたか。	・校外のボランティア活動等に、全校生徒がそれぞれ1回以上参加する。 ・交通事故、交通違反の件数を0件にする。	・朝の清掃ボランティア活動による習慣化と、校外ボランティア活動への呼びかけを積極的に行う。 ・交通規範意識向上のための交通講話や登下校指導を実施する。	A	・朝の清掃ボランティア活動では、2学期終了時点で、のべ1364人の参加状況と昨年度同様に多くの生徒が環境美化に貢献することができた。また、今年度も職員と一緒に活動を行い、生徒の模範となっていることが生徒の高い参加状況に結びついていると考えられる。校外ボランティア活動では、天草街道一斎除草ボランティアや倉岳町ふるさとまつりに16名が参加し、地域に貢献することができた。昨年度に比べ、校外ボランティア活動への参加生徒が増えた背景として、生徒会担当職員の呼びかけや周知方法の工夫が大きな要因と考えられるため、次年度も継続していきたい。 ・倉岳駐在所の方からの交通講話をはじめ、各学期に下校指導を実施し、交通安全を呼びかけた。原付による自損事故が1件あったが、交通違反件数は0件であった。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
人権教育の推進	互いの人権を尊重しあう心の教育の充実に取り組む。	・人権教育の推進が図られたか。	・人権教育推進委員会を年3回開く。 ・全職員が校外研修や人権関連行事に年1回以上参加する。 ・校内での職員研修を年1回実施する。	・各学期に人権教育推進委員会を開き研修や人権LHRの充実、情報の共有を図る。 ・校外研修や人権関連行事の情報提供を行い、積極的な参加を促す。 ・人権教育主任又は外部講師による職員研修を実施する。	A	・1、2学期に人権教育推進委員会を開き、人権LHRの内容検討や外部講師の精選、生徒情報の共有を行うことができた。 ・全職員が校外研修またはオンライン研修に1回以上参加し、人権教育に関する知見を深めることができた。 ・人権教育主任による研修を2回(同和問題、第3次とりまとめ)、外部講師による講話を1回(水俣病)実施することができた。
	命を大切にする心を育む指導の充実に取り組む。	・命を大切にする心を育む指導の充実が図られたか。	・命を大切にする心を育むための授業を年10時間程度実施し、「命」や「夢の実現」「ストレス対処」「薬物乱用防止」「救急法」についての学習を深める。	・各学年、教科と連携し、各学年別単元(ユニット)を構成して、計画的に指導を行えるようにする。 ・年度初めと年度末にアンケートを実施し、人権教育推進委員会で結果の分析を行う。その後職員会議等で生徒の「命」に対する考え方や、ユニットを通しての変化を全職員で共有し、次年度の指導に生かす。	B	・年度初めに各学年、教科と連携してユニットを構成し、先の見通しを立てて計画的に指導することができた。 ・年度末のアンケートは3学期の人権LHR後に実施予定であり、結果を分析して生徒の実態を把握し、次年度に生かしていく。 ・今年度の人権教育を通して、どのような変化がみられたかを職員にフィードバックする機会が少なかつたため(今年度は3学期に1度のみ実施予定)、次年度は回数を増やす必要があると感じた。
いじめの防止等	いじめ防止基本方針に則った活動を遂行し、いじめのない学校づくりを推進する。	・いじめの未然防止が図られたか。	・職員研修(生徒理解含む)を年3回以上実施し、職員での共通理解を図る。 ・生徒の学校評価アンケートで「相談できる人がいる」のA・B評価100%を目指す。	・研修の復講等を通して全職員の意識向上を図る。 ・面談予約システムを運用し、誰もが気軽に職員へ相談できる環境を整える。	A	・8月に職員研修「いじめ防止」を実施し、いじめの定義やいじめ問題への対応等について全職員で共有することができた。 ・「相談できる人がいる」のA・B評価は100%であった。今年度は、養護教諭を中心に生徒が自ら相談する姿が見られたり、生徒の様子に応じて早い段階でSC面談につなげたりしたため、面談予約システムの運用しなかった。
		・いじめの早期発見の取組が図られたか。	・こころのアンケート調査を年3回以上実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。	・各学期(7月・12月・2月)にアンケートを実施し、結果を基にいじめ対策委員会で協議し、必要に応じて当該学年職員及び生徒指導部職員等で面談を行うなど、組織的に早期対応する。また、いじめ匿名サイト「スクールサイン」を全校生徒が活用できるように指導する。	A	・各学期に1回、心のアンケートを実施し、アンケート結果を基に校内いじめ対策委員会で情報共有を行った。今年度のいじめ事案は0件であった。 ・年度初めに集会を開き、いじめ匿名サイト「スクールサイン」の説明とアプリの登録、テスト送信を全生徒実施した。今年度の投稿はなかった。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	学校行事における地域との交流の推進に取り組む。	・各年代との交流を深めることができたか。	・学校評価アンケートの地域交流に関する項目において、「地域の方々との交流を通して地域をより理解できた」と回答した生徒の割合を80%以上にする。	・近隣の幼保小中高との合同行事や老人会、婦人会などとの交流行事を年間4回以上実施する。実施時には担任を始め、教師から地域のリーダーとしての自覚を高めるための声かけを行い、主体的に参加させる。	A	・「幼保小中高合同清掃ボランティア」、「保中高合同避難訓練」、「倉岳校福祉の日」、「倉岳えびすマラソン大会」への出場ならびに運営ボランティアへの参加（一部生徒並びに職員）、「婦人会との交流会」の計5回の学校行事を実施することができた。特に、保中高合同避難訓練はコロナウィルス感染拡大の影響で規模縮小を余儀なくされていたが、4年ぶりに保育園も参加する形で実施することができた。 生徒評価アンケートの地域交流に関する項目において、「地域の方々との交流を通して地域をより理解できた」と回答した生徒の割合は80%となった。数値目標は達成しているが、倉岳・御所浦地域の魅力を生徒に体感させるより一層の取り組みが必要である。 また、本年度は熊本県教育功労（優秀教職員）表彰において、「地域に根ざし地域に開かれた学校」としての連携・協働”が評価され、「熊本県立天草高等学校倉岳校職員一同」が地域連携の分野で表彰を受けた。これはこれまで倉岳校を作り上げてこられた先生方と、地域の皆様のご協力のおかげであり、これまでの地域連携活動の大きな成果の一つである。
	地域の行事やボランティア活動に積極的に参加する。	・地域連携の組織づくりができたか。	・地域行事やボランティア活動への参加を生徒及び職員合わせて年間5回以上行う。	・主体的に参加することができるよう活動内容を具体的に示した募集案内を作成し参加を促す。		・幼保小中高合同清掃ボランティア活動に全校生徒、職員で参加し、地域の美化活動に取り組むことができた。また、倉岳町ふるさとまつりに14名の生徒が参加し、演舞を披露したり、運営補助を行ったりと地域行事に関わることができた。前述の通り、昨年度に比べ、校外ボランティア活動への参加生徒が増えた背景として、生徒会担当職員の呼びかけや周知方法の工夫が大きな要因と考えられるため、次年度も継続していきたい。
	総合型コミュニティ・スクール	・学校運営協議会からの意見に対し、改善を図れたか。	・学校運営の基本方針に係る教育活動の計画等に関する協議を充実する。	・学校運営協議会（教育懇話会）を年2回開催し、本校の教育活動について検討する。 ・本校の教育活動の現状を把握するため、在校生、保護者、本校職員への学校評価アンケートを実施する。	A	・教育懇話会（2回）及び学校運営協議会（2回）では本校の学校運営に対して積極的な意見を頂き、スクールバスや生徒募集等、教育活動改善に生かすことができた。 ・学校評価アンケートを実施し、そこで出た評価をもとに各部の反省及び今後の改善方策を行った。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
保健・安全管理	心身ともに自己管理ができる生徒を育成する。	・心身の健康に対する意識が高まつたか。	・心身の健康に関する講演会後のアンケートにおいて、「内容を理解できた」の回答率を98%以上にする。 ・ストレス対処教育講話を開催し、自己管理能力を培う。 ・スクールカウンセラーによる面談を実施し、自身の健康を維持・増進させていく姿勢・力を育てる。	・心身の健康に関する講演会を年3回以上実施し生徒の理解度確認のためのアンケートを実施する。 ・生徒保健委員と連携し、健康への意識向上のため、保健だよりを年5回発行する。 ・必要な行事の前には、養護教諭が留意事項等を印刷し、配付する。 ・ストレス対処教育講話を学年ごとに1回ずつ実施する。 ・担任との連絡を密にし、カウンセリングの必要な生徒に確実に面談の機会を設け、継続して見守っていく。	A	・心身の健康に関する講演会を年4回実施できた。理解度アンケートの平均値は99%であった。 ・保健委員と連携し3回保健だよりを発行しており、残り2回も1月・3月に発行する。今年度は片面を「スマホ・睡眠」をテーマにした内容にし、心身の健康に対する意識の向上に役立てた。 ・学年ごとに実施したストレス対処教育講話で学んだことを、生徒たちは生活の中で生かしている。学年部やSCとさらに連携を図り、引き続き学年の実態に即した内容にしていきたい。 ・「心のアンケート」の結果や個人面談の内容も踏まえて担任と連携をとり、必要な生徒にはSCやSSWと面談の機会を設け、見守っている。
	安全管理を徹底し、事故を未然に防ぐ。	・安全点検により事故を未然に防げたか。	・安全点検を年間3回実施し、事故件数0を継続する。 ・環境調査を行い、環境の整備を行う。	・長期休業前に全職員で安全点検を実施し、よりよい環境づくりにつなげる。 ・生徒保健委員と連携し水質や照度、二酸化炭素濃度、ダニアレルゲン等について環境調査を行う。 ・全校生徒を対象に学校環境についてのアンケートを行う。	B	・安全点検は夏期・冬期休業中に実施し、3月に3度目を実施予定である。事故件数も0で継続できている。 ・生徒保健委員と連携し、各種環境調査を行っている。特に水質調査は当番を決め毎週実施できている。 ・安全点検や環境アンケートによってわかった改善の必要な箇所は、修繕等依頼している。しかし、学校評価アンケートにおいて、職員の回答で「十分でない」という意見も見られた。老朽化・予算の関係もあるが、できるかぎり対応していきたい。
	良好な人間関係を構築するための態度やスキルを育成する。	・互いの良さや違いを認め合い、安心して自分を表現できる人間関係を構築できたか。	・高等学校における「学びのユニバーサルデザイン」構築事業の活動を継続して行い、よりよい人間関係を構築する力を育てる。	・全校生徒会してのLHRにおいて「人間関係づくりワークショップ」を計画的に実施し、事後アンケートを行い、コミュニケーション能力についての意識の変化を測る。 ・クラス毎のLHRに対しても、人間関係づくりにつながるツールを示し、支援する。	A	・「人間関係づくりワークショップ」事後アンケートでは、相手との会話のやりとりや相互理解ができたかなどの質問に対して、「できた」「まあまあできた」と答えた生徒の割合は98%で、ワークやグループでの意見交換によって、実生活に活かせる気づきを得ていた。 ・年度初めに、クラスでのLHRで活用できるプログラムを示した。1学年で実際に活用してもらい、人間関係づくりの推進につながった。
	防災教育及び災害時の自助、互助公助の精神を養う。	・災害時の避難場所や避難経路を正しく理解できたか。	・避難訓練を年間2回以上実施し、生徒及び職員の防災意識を高める。 ・訓練後のアンケートにおいて「災害時の避難場所や避難経路を正しく理解できた」、「防災についての学びを深め、防災意識を高めることができた」の2項目を達成した生徒の割合を100%にする。	・地震の避難訓練を1回、火災の避難訓練を1回行い、生徒の防災意識を向上させる。 ・訓練後に防災主任による防災講話やワークショップを行うことで、生徒の防災意識を高める。 ・職員研修を実施し、職員の防災意識を向上させる。	B	・避難訓練については、計画通り地震の避難訓練を1回、火災の避難訓練を1回の合計2回行った。 ・本年度は、保中高合同避難訓練を実施することができ、保育園児や倉中生、倉校生の避難経路の確認や倉岳校職員の避難誘導の動きを確認することができた。 ・訓練後のアンケートにおいて「災害時の避難場所や避難経路を正しく理解できた」、「防災についての学びを深め、防災意識を高めることができた」の2項目を達成した生徒の割合は100%であった。 ・本年度は防災に関する職員研修を実施し、学校に求められる防災機能について情報共有ができた。その一方で、避難訓練後の生徒への防災講話やワークショップが実施できなかつたため、今後の課題としたい。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
特別支援教育	特別支援教育の充実と支援体制を確立する。	・特別支援体制の確立ができたか。	・個別の教育支援計画及び指導計画の作成と、一人一人の教育的ニーズ等に応じた合理的配慮の提供を行う。	・校内特別支援教育委員会を月に1回開く。 ・必要な生徒には個別の教育支援計画及び指導計画を作成し、全職員で共有するための時間を確保する。 ・生徒への対応の仕方や合理的配慮等について、スクールカウンセラーによる研修を実施し、職員で共通理解を図り支援にあたる。	A	・校内特別支援教育委員会を6月からだいたい月に1回のペースで開き、必要な生徒に個別の教育支援計画及び指導計画を作成した。 ・委員会開催によって、学年を越えて継続して共通理解を図り、その結果を全職員で共有した。 ・困り感を持つ子どもの特性や、適切な対応の仕方について、スクールカウンセラーによる職員研修を実施し、理解を深めた。 ・学年団と連携し、さらに専門的な見地からの助言が必要な生徒に対して巡回相談を活用することができた。今後も継続していきたい。
業務改善・働き方改革	教職員が健康で公私ともに充実した人生を送ることができるよう体制を整備する。	・働き方改革に係る環境整備と教職員の意識改革ができたか。	・教職員の勤務時間外在校時間を年間平均月42時間以内にする。 ・年間15日以上の年休取得を目指す。 ・「学校DX化」に向け、ペーパーレス化を目指す。 ・時差出勤の周知と推進。	・月1回の定時退勤日、夏季休業中の学校閉庁日(4日間)を設ける。併せて、部活動や個別指導がない日は積極的に定時退勤を行うように声かけを行う。さらに、時間外勤務時間が長い職員には、個別に助言等を行う。 ・「部活動に係る活動方針」に基づき、適正な練習時間を遵守し、指導の分担等を進める。 ・各会議・部会等の資料はデジタル化しクロームブック活用の定着を図る	A	・昨年度同様月1回の定時退勤日、8月12日(月)～15日(木)を学校閉庁日、部活動は、水曜日と休日の土日少なくとも1日を休養日とした。12月末の時点で、教職員の勤務時間外在校時間の平均は月31時間37分(昨年度42時間42分)であり、昨年度より約11時間減少している。課題として、定時退勤日の放課後に会議が入ってしまったり、校務分掌や先生方個別の勤務時間外在校時間の格差があげられる。学校全体として校務の均整化や会議等の見直しが必要である。 ・運営委員会・職員会議等の資料はデジタル化し、各教師のクロームブック持参で参加、また電子黒板及びプロジェクターを使用し会議の進行をしており、定着した。各部会や学年会でも更なる推進を図る。 ・時差出勤に関しては、本年度行事で計画運用した。